

Microsoft Teamsを活用した簿記教科科目の効率的な運営方案

A study on an efficient way to manage bookkeeping subjects using Microsoft Teams

金 承 子

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下「COVID-19¹」という。）が世界的に流行し、終息にはまだ時間が掛かりそうだ。その影響は大きく、私たちの生活にさまざまな変化をもたらしている。その影響の一つとして思いがけないオンライン環境への変化を余儀なくされた分野が教育である。静岡英和学院大学（以下「本学」という。）では2020年5月からオンラインでの授業（以下「遠隔授業²」という。）をスタートさせた。文部科学省高等教育局大学振興課は、COVID-19によりオンライン授業方式を次のように3つのタイプの授業を提示³した。①教師と生徒が画像接続で授業する「リアルタイム双方向型」、②教師が録画した講義を見る「コンテンツ活用型」、③読書感想文などの課題を出す「課題遂行型」である。

筆者が担当しているほとんどの科目は実用科目であり、実践科目の一つである。その科目は「簿記原理」「会計学」「コンピュータ会計」「情報発信演習」である。筆者はその教科科目の特性を考慮して上記の①「リアルタイム双方向型」の授業方式を選択し、実施することとなった。それから数カ月が過ぎ、遠隔授業による混乱も少しは落ち着いたような気がする。しかしながら、いままでオンラインでの授業をしなくてはいけないと思ってもこなかったのが遠隔授業を取り入れたものの試行錯誤の連続である。

さて、近頃、ビジネスで使えるオンライン会議のツールとしてマイクロソフト コーポレーション（Microsoft Corporation、以下「Microsoft」という。）のTeams（チームズ、以下「Teams」という。）、Zoom社のZoom、Google社のMeet（(旧称 Hangouts Meet)）などが知られている。普段使っているGmail、Facebookといったアカウントのログインさえできれば無料でダウンロードができ、簡単に操作することができる優れた方法である。本学⁴では2017年度からMicrosoft Office 365を使い始めた。すでに全校生に個人の専用アカウントが学校から配布された。そのため、筆者もTeamsを使い「リアルタイム双方向型」の遠隔授業を始めることができた。Teamsのメリットの一つはまるでその場にいるかのような感覚を持つことができることだ。場合によっては学生の顔を見ることもできる。

なお、本研究を実施するに当たり、以下のような背景も主要因の一つとなった。COVID-19の影響は日本商工会議所（以下「日商」という。）が主催する簿記検定試験にまで及ぼしたのである。2020年6月に実施される予定だった第155回簿記検定試験がCOVID-19の拡大等により、各検定試験の創設以来、初の中止⁵となった。日商の公表によると今後も、COVID-19拡大の収束は見通せ

ず、試験会場の確保が困難な状況が続くと想定され、現行の方法では、試験の継続的な施行は難しい状況にあるとのことだ。

本稿の目的は、Teamsの使い方を解説するものではない。あくまでもTeamsのツールを有効に活用し、学生に「どのようにして簿記の知識を高めさせることができるのか」である。

したがって、本稿は以上の動向を考慮しつつ、Teamsを活用した簿記教科科目の効率的な運営方案について検討する。本稿の構成は以下の通りである。まず、1「はじめに」では本稿のテーマである「Microsoft Teamsを活用した簿記教科科目の効率的な運営方案」を巡る環境の変化について言及する。そして2では、遠隔授業のツールとして使われているTeamsの概要を眺める。3では、日商簿記検定試験の新たな施行方法の特徴について概略する。4では、遠隔授業による簿記教科科目の活用と効果について述べる。最後に、本稿をまとめる。

2. Microsoft Teamsの概要

2-1 Microsoft Teamsの背景

Teamsは2017年3月14日、マイクロソフト コーポレーション (Microsoft Corporation)⁶ により発表された。TeamsはMicrosoft365アプリケーションの一部であり、組織で使用するメッセージング アプリである。かつ、TeamsはWindows、macOS、Linux、iOS及びAndroid向けに開発・提供するコラボレーションプラットフォーム (collaboration platform)⁷ である。Microsoftはその後、2017年5月3日にOffice 365 Education (旧称Office 365 for Education) のMicrosoft ClassroomをMicrosoft Teamsに置き換えると発表した⁸。Microsoft社によると、2020年10月27日現在、Teamsの毎日のアクティブユーザー数が1億1,500万人を記録したと発表⁹した。これは、2020年4月29日に発表された毎日のアクティブユーザー数7,500万名から53%も増加した数値である。多くの人が新たなデジタル時代における仕事、生活、学習全般においてTeamsを使いコミュニケーションまたは打ち合わせをしていることを意味している。

2-2 遠隔授業への活用

遠隔授業ソリューションであるTeamsはオンライン教育の満足度を高め、新たな学習環境時代に重要な役割を果たしている。そのため、現在、全世界175カ国18万3,000以上の教育機関で使用されており、国内の教育現場での活用も大幅に増加した¹⁰。現在もTeamsを使用している事例が、多くのマスコミによって取り上げられている。

筆者もTeamsを使い始めてから約半年程経っており、やっと使い慣れている。その例として、Foamsの機能を使い、動画や画像で構成されたクイズを作成し、毎回の出席チェックと復習テストを実施している。他に、Microsoftの迅速なフィードバックと現場の要件を反映できる機能のおかげで学生に個別のフィードバックを行っている。また、簿記問題を解く際に一つのファイルを共有し、皆で問題を解く作業を行う。そのために使われているのがOneNote、Whiteboardの機能で

ある。その他、PPTやPDFで作成された教材の共有、授業映像録画など、さまざまな機能を適用している。その結果、リアルタイムの遠隔授業が円滑に行われており、満足して活用している。

2-3 期待できる効果

筆者が担当した2020年前期の「簿記原理」科目履修者はやや多い73人であった。遠隔授業は必ずしも良いことだけではない。特に、人数が多い場合、各個人の学生指導と理解度の把握が難しい。そのため、最も深刻に感じる問題は学力格差である。それはいつの環境（対面授業）にも同じであると言えるが、学力格差の最大の原因はやる気がある学生とやる気がない学生との差ではないかと思っている。やる気がない学生ほど遠隔授業にきちんと適応できず、やる気がある学生との学力格差を見せている。この論点について中室氏によれば、オンライン授業（遠隔授業）と対面授業の学習効果の差はないとのことだ。

「これはオンライン授業の質や教育効果の問題とは別の話だ。米国の学生を対象とした比較試験で、対面でも遠隔でも学習成果に差はないとの研究がある。一方、遠隔の場合は受講する学生が1割増えても、学習成果が低下しないという論文も発表されており、コスト面では遠隔の優位性が示唆される。ただ、遠隔授業にも弱点はある。全体の平均的な学習効果は変わらないものの、低学力層は対面よりも成果が下がる傾向が分かっているという。」¹¹ (2020-10-23).

このように、COVID-19による教育のオンライン化はその学習効果という面でも賛否両論があるようだ。現在、Teamsは学習のための連携ツールとして教育現場で活発に使われている。しかし、このような緊急事態ではなく、しっかりと準備・設計がされた上でオンライン教育がなされた場合、その学習効果は対面式と比べてどうであろうか。筆者は、Teamsは単純に遠隔授業を超え、より良い教育環境と機会を提供することができるツールの一つであると期待している。そのために、遠隔授業の良さを生かしつつ、変化の時代に対応すべく、新しい教育の在り方としてさらなるTeamsの活用について学ぶ必要があると痛感している次第である。

3. 日商簿記検定試験の新たな施行方法の概略

昨年、2019年6月の第152回から日商簿記3級の試験範囲が改定されることが公表された。2019年7月25日、その当時筆者は、静岡商工会議所が主催する日商簿記検定出題区分改定における指導者講習会¹²に出席していた。ところが、思いがけないCOVID-19の影響により2020年6月に実施される予定だった第155回簿記検定試験が、各検定試験の創設以来、初の中止¹³となったのである。その影響で2020年9月10日、日商により日商簿記3級・2級の試験制度を変更するとの発表が行われた。引き続き、2020年9月18日に追加の発表公示があった。そこで日商により2020年9月24日、簿

記指導者等教育機関関係者や簿記関連書籍の出版社担当者を対象として、「簿記検定の新たな施行方法」についての説明会が、オンライン方式（一部リアル方式）で開催された。筆者もその関係者の一人として参加した。その主な内容は「日商簿記検定試験の新たな施行方法（ハイブリッド化¹⁴）について」であった。以下、日商による簿記検定試験の新たな施行方法の趣旨と内容の概略を説明する。

3-1 試験制度の変更¹⁵

2020年9月10日公示¹⁶された主な内容は、「2020年12月からネット試験を導入すること」、「受験料は統一試験もネット試験も同額になること」であった。長年実施されてきた試験制度を変更せざるを得なくなったのである。その原因は、COVID-19の感染者数が継続して増加していること。また、試験会場として利用できる施設の確保が難しいと報じられた。さらに、今後、引き続きCOVID-19の感染症拡大が収まらず、なお、会場確保が困難な状況が続くことを想定して、紙媒体で試験を施行する現行の方法（ペーパー試験）のみでは、年間で約50万人を超える受験者の受験機会を確保することが困難となると発表された。

再び、2020年9月18日に「日商簿記検定試験（2級・3級）」へのネット試験方式の追加についての告示¹⁷があった。2020年11月現在、公開されている内容は以下の通りである。ネット試験会場は商工会議所が認定した全国100カ所（2020年9月現在）の「テストセンター」で実施される。受験申込方法は全国统一申込サイトから行われ、受験・採点・合否判定・デジタル合格証の交付はすべて現地のパソコン上で行われる。また、受験時に配られる計算用紙は終了後に回収される。さらに驚きの内容として、3級の試験時間は120分から60分に、2級の試験時間は120分から90分に変更されることであった。出題形式は若干変更されるが、幸いに出題区分表（＝出題範囲）に変更はないと公表された。いずれにせよ、試験範囲の改定と同時に試験制度の変更により、簿記指導者等教育機関関係者や簿記関連書籍の出版社担当者などはなかなか落ち着く暇がない状況である。

3-2 日商簿記検定のハイブリッド化

日商簿記3級・2級は2020年12月より従来の「統一試験方式（年3回）」と「ネット試験方式（随時）」のハイブリッド方式に変わると発表された。ハイブリッド（hybrid）方式とは、「二つの異なる仕組みや技術を組み合わせた方式。」¹⁸である。日商・各地商工会議所は、そのハイブリッドと言う概念を使い、日商簿記検定試験の2級と3級について年3回（6月、11月、2月）の統一試験にペーパーで行う従来の試験方式（統一試験方式）に加えて、随時施行が可能なネット試験方式（CBT方式）による試験を実施することを正式に決定した。その背景にはやはりCOVID-19の影響が大きい。それにより多くの学習者が受験機会を喪失することを防ぎたいとの主旨があると思われる。このようにCOVID-19の拡散はIT活用による我々の「新たな働き方」、「新たな生活様式」を変えつつある。

こうした状況を受け、日商は継続的・安定的に試験実施が可能となる体制を構築するとともに、

社会変化に対応したIT化・デジタル化を基盤とする新たな試験実施の仕組みを取り入れた。これにより、業務の都合や学習の到達度に合わせた随時受験が可能となり、受験者のみならず企業・教育機関にとっても同検定活用の利便性の向上が期待できると考えられる。

3-3 ネット試験方式

2016年11月17日、すでにネット試験方式による「商業簿記初級」の創設が発表された¹⁹。また、2018年4月から新しく「原価計算初級」が創設²⁰され、実施されるようになった。ところが、2級・3級までがネット試験を取り入れるという公表も時代の変化を反映している。COVID-19の拡大により、実施される予定だった第155回簿記検定試験が各検定試験の創設以来、初の中止となったので大きな転換点になったと言えるでしょう。

現在のネット試験は日商が認定した全国100箇所を設置された「テストセンター」を受験会場とし、CBT (Computer Based Testing) 方式によって行われている。CBTとは、指定の会場で指定のコンピュータで行われる試験方式であり、会場の詳細な場所や数は今後明らかにするそうだ。

なお、ネット試験という名称にはなっているが、自宅での受験はできない。試験形式は、受験者ごとに割り当てられたコンピュータに、それぞれ異なる問題が配信される形となる。試験会場では計算用紙1枚が配布され、試験終了後にその計算用紙は回収される。採点はシステムにより自動採点が行われる。合格者にはデジタル合格証が即日交付される。現在、ネットによる「商業簿記初級」や「原価計算初級」試験と同じ形式を取る様子だ。今まで経験がなかった形式になるために、筆者も含めて簿記検定試験関係者はしばらく動揺するでしょう。しかし、早くも「商業簿記初級」や「原価計算初級」の試験の実績があるので、ある程度柔軟に対応できるのではないかと考えている。

4. 遠隔授業による簿記教科科目の活用

本学ではCOVID-19の拡散や憂慮で開講が遅れたいたが、2020年5月11日から遠隔授業でTeamsなどを使い、新しい学期を始めた。TeamsはMicrosoft Office365を使用している学校、団体、機関が無料でダウンロードして使用できるソリューションの一つである。筆者もTeamsに強い関心を持っていたために積極的に実行し、遠隔授業をスタートさせた。しかし、いまだに失敗を繰り返している。果たして、Teamsは遠隔授業に適用されるツールの一つとして学生に合わせる教育実現が可能であろうか。本稿では、その疑問を問い続けるべくTeamsの活用についてそのメリットとデメリットを考慮し簿記教科科目への活用と期待を試みる。ただし、取り上げているTeamsのツールは一部に限る。その活用の例をあげると以下の通りである。なお付言すれば、遠隔授業に対する批判的な視点は今回の目的ではなく、いかにして効率よく活用できるのかに関する主旨である。

4-1 簿記教科科目への活用

時間の経過に伴い遠隔授業のノウハウが付き、授業の進め方が徐々に良くなっているような気が

する。まず、Formsの機能を使えば、出席チェックとテストが可能である。次に、授業全般の効率を向上させるためにPPTやPDFファイルで作成した教材を学生と共有できるように活用している。また、実践科目である簿記教科科目は多くの演習問題を解くことが重要である。そのために、遠隔授業としての特徴を生かして問題を解く過程、課題における議論やコラボレーション中心の授業の方法などに焦点を置いて進めていく。そうすることによってリアルタイムで学生の学習状況の理解度を把握することが可能になる。重ねて、学生は分からないところを見つけたら同時に質問することも可能である。何より学生に個別のフィードバックを対面授業と同じように提供することができる。例えば、学習の進捗状況に問題がある学生とすぐに疎通して、学生の質問にチャットや映像接続を介して対応できる。

一方、遠隔授業の授業時間に他のことをする学生を現実的に制止するのが困難である。そのため、上記で取り上げた内容に追加的に考え出したのが以下の例である。

- ①教材のPDFファイル化：事前に学生は指定教科書を用意している。その上、教材をスキャンしてからPDFファイル化する。教員のパソコンのモニターを学生のパソコンやタブレットなどに映す。このように遠隔授業のために教材化することによって学生との画面共有ができ、勉強しやすい環境を提供することができる。また、PDFファイルの教材に色々書き込みながら説明ができる。
- ②Formsの機能を使い、小テストや論述課題などを行う：Formsの機能を使い、まず、出欠の管理を行う。その上、当該の科目の内容を最低限理解してもらうために、毎回、出席後10分程度の時間を使って前回の内容の復習小テストを行う。Formsの優れている機能の一つは、テストの結果を直ちに学生に投稿（返却）し、学生は自己点検ができることだ。
- ③Microsoftのホワイトボード（Whiteboard）機能の活用：ホワイトボードはオンラインで使えるデジタルホワイトボードである。Microsoft ホワイトボードはMicrosoftアカウントさえ持っていれば誰でも無料でダウンロードしてその機能を使うことができる。学生の参加者がペンやキーボードなどでスケッチできるので学生と共同作業が可能になる。また、手書きも入力できるのでホワイトボードに書き込むことができる。このようにホワイトボードを使うことで簿記計算の問題などを解く作業の過程を画面で共有できる。このような作業は学生に緊張感を与え、集中させることができる。何より良いところは皆で同じ画面を見ることで、授業に一体感を持たせることができることだ。なお、データは自動的にクラウド²¹に保存され、いつでも見返すことができる。かくして簿記教科科目の実践のための最適な機能であると言える。

以上、Teamsのいくつかの機能を使い遠隔授業時の簿記教科科目への効果的な活用について検討してみた。

4-2 遠隔授業の効果

実際、簿記教科科目に上記で触れたいくつの機能を活用してみると、TeamsにはMicrosoftのノウハウがたくさん組み込まれていることがわかる。一方、その活用面について多くの限界を感じて

いることも事実である。しかし、現在のところしばらく遠隔授業をしなければならない様子であるため、前向きにTeamsの機能を活用できることを望んでいる。

遠隔授業は主に聴く、見るのが主になっている。しかし、簿記教科科目の場合、聴く、見るだけでは上達できない。実際にたくさん問題を解くことが必要である。そこで、遠隔授業を運営する側としてその方法を伝え、学生の様子を必ずチェックしてからフィードバックをする。このように遠隔授業を通して学習プロセスがすべてデータ化され、教員も学生も授業時間のほか、データ中心の教育環境が生まれたと思われる。その結果、遠隔授業は対面授業の不足点を補え、ある程度の学力を高めることができた契機になっていると思っている。では、遠隔授業の効果を特徴付けると以下の通りである。

- ①遠隔授業の効果の一つはCOVID-19のように学校に通えなくなり授業を受けられなくても、遠隔授業の環境があれば、どちらにいても授業を受けることが可能である。この点が、遠隔授業の最大の良さである。
- ②大学での授業が遠隔授業になったことで、これまでの対面授業と比較して次のような効果が現れている。例えば、細かな添削・評価や返却時のコメントなどを付けてあげると授業中一人ひとり見てくれている感を出すことができる。すなわち、さまざまなタイプの学生を授業に参加させることができる。
- ③遠隔授業では学生による簿記演習問題を解いている姿が見れない。しかし、その工夫策として考え出したのがスキャンした教材を画面に見せて説明をする間、学生にワードやノートに書かせる方法だ。授業後、その結果物（ファイル）を提出させることにより授業の途中で退出する学生を防ぐこともできる。なお、次回の時間に提出したファイルを学生と画面を共有しながら話し合えるため、その満足感を与えることができる。
- ④遠隔授業の効果は想像していた以上に大きい。時空の制約を超えられる遠隔授業の利便性を大いに活用することができるからである。また、学習意欲の低い学生などを励み、不利になる人がいないようにきちんと見てあげることができる。

以上の結果、遠隔授業から期待できる効果は、学生に大きな興味を持たせることができ、従来の教育と関連して付加価値を提供するという点である。今後、遠隔授業と対面授業を対立させるのではなく、うまく組み合わせて学生の満足度を高めさせていくために更なる工夫が必要であると思われる。

4-3 効果的な遠隔授業案

近頃、遠隔授業に関する多様な議論が行われている。遠隔授業はいくつかの利点により便利であることは分かる。しかし、遠隔授業は対面授業より決して優しくもないし簡単でもない。例えば、学生の全体像が見れないという点である。また、現在の状況では遠隔授業を受講しているかどうかぐらいや課題遂行の結果のみ出席として認めている傾向であるため、遠隔授業を接続しておいて他のことをやっていることが把握できない。そのため、遠隔授業だけではやりきれないところが存在

している。また、オンラインコンテンツ不足や遠隔の限界の問題、学生の学習効率の低下の問題などが目立つ。

遠隔授業が始まった以来、筆者が担当している実践科目の簿記教科科目をいかに効率よく活用させるのかについて思い悩んでいる。そのため、率直にどのような方法の遠隔授業が効果的であるとかを一言で断言できることは難しい状況である。とはいえ、遠隔授業が学生に新たな関心をもたらしていることも現実である。このような点を認識しながら、本稿では新たな授業形式の方案について模索してきた。

以上の結果筆者は、従来の対面式授業と関連して意外にも付加価値を提供できるという視点からポジティブに捉えている。その理由を以下のようにまとめることができる。

- ①対面授業時より学生と多くのコミュニケーションを取ることができる。
- ②オンライン授業はどこにいてもアクセスが可能であり、携帯、iPadなどにダウンロードして使用可能になる。そのために、即時質問に答えることができる。
- ③Formsという機能を使い毎回の復習と予習の確認が可能であり、その都度評価をすることができる。
- ④遠隔授業時、学生が重要な概念・原理を習得することができるように学習を促進する役割、学生間の相互作用を助ける役割、学習日程・プロセスを調整・管理する役割などに加え、学生が遠隔授業システムやプログラムをスムーズに利用できるように手助けすることができる。
- ⑤遠隔授業を受けるときには学生同士の共同作業の有無が学習効果に大きな影響を与える。その理由は、学生が単独で行う個人作業だけでは学習効果を高めることにならず、学生同士での相互作用が重要となるからである。したがって、授業中に学生同士のコミュニケーションを設けることは、学習効果を高める効果もある。
- ⑥遠隔での授業を聞くときは、主に視覚のみを使用することになり、学習された情報をすぐに忘れてしまう。そのため、遠隔授業を受ける間には、wordやノートに筆記を取るようさせる。
- ⑦授業中離脱する学生の管理のために、一方向的な内容を伝達方式で運営されているのではなく、学生の積極的な参加を促すために声を出して説明してもらう。それによって、対面授業と同様な効果を感じることができる。

現在の環境ではノウハウ (know-how) の限界はある。しかし、以上の効果を踏まえつつ、遠隔授業の学習効果の限界を克服し、学習効果の面のシナジー (synergy) 効果を最大限にさせるための工夫が要求される。今後、本来の授業形式である非対面授業後にも、非対面授業と対面授業の混合型の授業を心がけている。そのためには、さらなる試みが必要であり、何より学生各々の動機付与と自己管理が必要になる。

5. まとめと今後の課題

本稿の目的はTeamsのツールを有効に活用し、学生にどのようにして簿記の知識を高めさせる

ことができるのかであった。そのために、まず、COVID-19の拡散により遠隔授業をせざるを得なくなった環境の変化を概観した。次に、Microsoft社のTeamsのツールを確認し、最後に、遠隔授業による簿記教科科目の活用と効果的な遠隔授業案を検討した。

簿記教科科目は実践的科目であるために講義中心ではなく、学生の主体的な学習が中心の授業である。そのため、遠隔授業は一方的に教えるのではなくあくまでも補助的なものであり、多方面に考えなければならない。なおいっそう、学生の学習の状況、遠隔授業の効果・満足度、今後の課題を解き明かすために対面授業に戻った場合も、遠隔授業の並行が望ましい。

一方で、緊急導入された遠隔授業は多くの課題が浮き彫りになった。注目すべきポイントは、①教員の時間が対面授業より一層多くの時間を費やしないと行けない、②多い時間が要求されるために教員の業務は過労死²²のラインを超えているとの問題、③Microsoft Teamsを全部活用できない限界の問題である。

最後に付言すれば、つい最近、財務省の財務総合政策研究所により新型コロナウイルス感染拡大により経済社会に及ぼす影響に関する研究報告が多数発表²³された。その中で、以下のような内容が目目を引く。

「新型コロナウイルスの感染拡大は、社会のシステム、人々の生活に大きな影響を及ぼしている。外出自粛要請により、経済・雇用が不安化する中で、働き方が変わり、教育の在り方にも大きな変革が迫られている。こうした観点から今般の危機を見ると、所得や雇用・教育機会の減少により、人々の間の格差拡大が懸念される」²⁴ として述べている。

筆者は簿記・会計は今の時代において社会人として必須の教養であると認識しており、今後、各個人の資産運用は変化の風を起こすであろうと見なしている。そのため、各自の資産管理のためにも簿記・会計の知識は一つのナビゲーションとして重要な役割を果たすであろうと思っている。COVID-19の感染拡大などの急激な経済環境の変化に伴い、益々その必要性は高まるでしょう。筆者は、引き続き学生の簿記学習を支援し、その普及を活性化させるために努めたいと思っている次第である。

注

¹ WHO, “Coronavirus disease (COVID-19) is an infectious disease caused by a newly discovered coronavirus. 2019年に発生した新型コロナウイルス感染症であり、COVID-19として略した言葉である。 https://www.who.int/health-topics/coronavirus#tab=tab_1 (参照2020-05-20).

- ² 文部科学省,「遠隔授業はインターネットを使用したリアルタイムの双方向授業を意味している」(参照2020-05-20).
- ³ _____, 文部科学省高等教育局長(公表資料)(参照2020-03-24).
- ⁴ 2017年9月に「Microsoft Teams」に置き換え,本格的に使い始めたのは2020年4月からである(2020-11-4 本学学務課からの情報提供).
- ⁵ 日本商工会議所,「第155回簿記検定試験について | 商工会議所の検定試験 (kentei.ne.jp)」(参照2020-05-20).
- ⁶ Microsoft社,「Office 365 のチャットベースのワークスペース「Microsoft Teams」提供開始(2017-03-17), <https://news.microsoft.com/ja-jp/cp/corpdata/米国本社概要> (参照2020-07-06).
- ⁷ 意味は, 連携基盤. <https://ejje.weblio.jp/英和・和英辞典> (参照2020-07-06).
- ⁸ SalamanderSoft, “Microsoft Classroom to be replaced by Microsoft Teams in Office 365 for Education - Education Integration” (英語). blog.salamandersoft.co.uk (参照2020-06-21).
- ⁹ INDIA TV News, 「Microsoft Teamsのデイリー アクティブ ユーザー数が1億1,500万人を突破-Microsoft 365のコラボレーション時間の指標を新たに導入」 <https://www.indiatvnews.com/technology/news-microsoft-teams-garners-115-million-daily-active-users-660520> (参照2020-11-01).
- ¹⁰ Microsoft社のJapan News Center, 「子どもたちの将来のために, 大人向けのツールを学習教材に—ある学習塾が実践するMicrosoft TeamsとPower Appsを活用したオンラインプログラミング教育」(参照2020-11-01).
- ¹¹ 中室牧子, 手段より達成目標重要. 日本経済新聞. 2020-10-23, 日刊, p.5. (参照2020-10-30).
- ¹² 静岡商工会議所, 日商検定推進アドバイザー 小島一富士氏による講習会と日本商工会議所 事業部 岩崎浩平氏による商業教育に対する産業界の期待の内容であった.
- ¹³ 日本商工会議所, 「第155回簿記検定試験について | 商工会議所の検定試験 (kentei.ne.jp)」. (参照2020-05-20).
- ¹⁴ ハイブリッド (hybrid) 「混合」や「複合」という意味 (kotobank.jp) (参照2020-10-01).
- ¹⁵ 日本商工会議所, 商工会議所の検定試験 (kentei.ne.jp) (参照2020-10-01).
- ¹⁶ _____, 第156回日商簿記検定試験(2020-11-15施行)を受験予定の皆様へ | 商工会議所の検定試験 (kentei.ne.jp). (参照2020-10-01).
- ¹⁷ _____, 「日本商工会議所. 日商簿記検定試験(2級・3級)へのネット試験方式の追加について | 商工会議所の検定試験 (kentei.ne.jp) (参照2020-10-01).
- ¹⁸ デジタル大辞泉, ハイブリッド方式とは - コトバンク (kotobank.jp) (参照2020-10-01).
- ¹⁹ 日本商工会議所, 日商簿記初級趣旨・内容より.
- ²⁰ _____, 原価計算初級趣旨・内容より.
- ²¹ IT用語辞典公式, クラウドとは, コンピュータ資源を通信ネットワークを介して遠隔から利用す

るシステム形態を「クラウドコンピューティング」(cloud computing) という。(参照2020-09-30)

²² 井上大介,「遠隔授業は教員の過労死ラインをさらに超える」. 2020-08, p.175-176, <https://gakkai.univcoop.or.jp/pcc/2020/papers/list/igyoku.html>. 同志社大学 論文集2020 PC Conference (参照2020-10-31).

²³ 財務省,「新型コロナウイルス感染拡大の経済社会に及ぼす影響と変化に関する調査研究:財務総合政策研究所 (mof.go.jp)」(参照2020-10-30).

²⁴ _____,「コロナショックと教育・経済格差についての考察」(mof.go.jp)」(参照2020-10-30).

参考文献

大久保昂 (2020-11-02付記事)「オンライン授業は「悪」なのか 対面授業 5割未満の大学名公表の波紋」 毎日新聞. 日刊, p.7.

中室牧子 (2020-10-23付記事)「手段より達成目標重要」日本経済新聞. 日刊, p.5.

中室牧子 (2015)『学力の経済学』ディスカバー21, pp.27-82.

参考サイト

井川大介.「遠隔授業は教員の過労死ラインをさらに超える」2020-08, pp.175-176,

<https://gakkai.univcoop.or.jp/pcc/2020/papers/list/igyoku.html>, 同志社大学 論文集2020 PC Conference, (参照2020-10-31).

英和・和英辞典. “collaboration platform”. weblio. <https://ejje.weblio.jp/>, (参照2020-07-06).

高等教育局大学振興課.「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて(周知)(mext.go.jp)」。文部科学省. 2020-06-05.

https://www.mext.go.jp/content/20200605-mxt_kouhou01-000004520_5.pdf, (参照2020-09-01).

_____.「本年度後期や次年度の各授業科目の実施方法に係る留意点について (mext.go.jp)」. 文部科学省. 2020-07-27.

https://www.mext.go.jp/content/20200605-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf, (参照2020-09-01).

コトバンク辞典. ハイブリッドとは - コトバンク (kotobank.jp), (参照2020-07-06).

日本商工会議所「2019年度以降の簿記検定試験出題区分表の改定等について」

https://www.kentei.ne.jp/bookkeeping/revision/effect_2019, (参照2019-08-30).

商工会議所の検定試験.「第155回簿記検定試験について (kentei.ne.jp)」。日本商工会議所.

<https://www.kentei.ne.jp/29933>, (参照2020-05-20).

- _____ . 「日商簿記検定試験（2級・3級）」へのネット試験方式の追加について（kentei.ne.jp）. 日本商工会議所. 2020-09-18. <https://www.kentei.ne.jp/31498>, (参照2020-10-18).
- 財務総合政策研究所. 「新型コロナウイルス感染拡大の経済社会に及ぼす影響と変化に関する調査研究: 財務総合政策研究所（mof.go.jp）」. 財務省.
<https://www.mof.go.jp/pri//research/shingata.htm>, (参照2020-10-30).
- Health Topics. “Coronavirus”. WHO.
https://www.who.int/health-topics/coronavirus#tab=tab_1, (参照 2020-05-20).
- INDIA TV News. “Microsoft Teams garners 115 million daily active users, says CEO Satya Nadella” (英語). 2020-10-28,
<https://www.indiatvnews.com/technology/news-microsoft-teams-garners-115-million-daily-active-users-660520>, (参照2020-11-01).
- IT用語辞典. 「クラウドコンピューティング（クラウドシステム）とは - e-Words (e-words.jp)」,
(参照2020-09-30).
- Microsoft. <https://news.microsoft.com/ja-jp/cp/corpdata/>, (参照2020-07-06).
- Microsoft. 「教育向けクイック スタート ガイドMicrosoftTeamsforEducation_QuickGuide_JA-JP.pdf (azureedge.net)」.
https://edudownloads.azureedge.net/msdownloads/MicrosoftTeamsforEducation_QuickGuide_JA-JP.pdf, (参照2020-06-20).
- News Center Japan. 「子どもたちの将来のために、大人向けのツールを学習教材に—ある学習塾が実践するMicrosoft TeamsとPower Apps を活用したオンライン プログラミング教育」.
2020-05-29,
<https://news.microsoft.com/ja-jp/2020/05/29/200529-online-programming-education/>,
Microsoft, (参照2020-11-01).
- Salamandersoft社. “Microsoft Classroom to be replaced by Microsoft Teams in Office 365 for Education - SalamanderSoft - Education Integration” (英語). blog.salamandersoft.co.uk, 2017-06-26,
<https://www.salamandersoft.co.uk/blog/microsoft-classroom-to-be-replaced-by-microsoft-teams-in-office-365-for-education>, (参照2020-06-21).